

「総合知入門」設置による総合知教育の早期定着と総合知的人材育成の推進

早稲田大学 社会科学部(早田 宰)・大学総合研究センター(山田 寛邦)

早稲田大学では、建学の精神を基に研究・教育・貢献を柱とし、総合知による人類への貢献を掲げている。すべての事業を貫く目標を総合知による人類への貢献としている。社会科学部は学際性・国際性・臨床性を特色とし、総合知を発揮する人材育成の土台形成を目的に2024年度より「総合知入門」を設置した。初年次を対象とする重要科目群に位置づけられ、総合知教育の早期定着を図る。受講学生は評価において大きな伸長が確認され、2年次以降は自身の問題意識に応じたコースを選択し、学びを深めながら総合知の力を高めていく。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

社会課題解決を起点に、個人・組織・機関連携の重層的な総合知を担い、組織や分野を越えた協働や新たなプロジェクト創出を主導できる、ソーシャル・イノベーターの育成・輩出を目指す。

総合知人材の育成方法/育成方法の工夫

総合知を社会・機関連携・組織内・個人の重層構造としてモデル化し(図1)、「総合知入門」を初年次対象の重要科目群に位置づけている。受け身の知識観から脱却し、総合知の事例探究やルーブリック評価を通じて、主体的に総合知を発揮する意識とマインドセットの醸成を図っている。

生み出された総合知 / 得られた新たな価値

本取組により、総合知を社会全体の営みとしてだけでなく、自分ごととして捉える視点を育む土台が形成された。学際性・国際性・臨床性を軸に、社会課題解決を起点とした学びを深めながら、組織や分野を超えて連携やプロジェクトを主導できるソーシャル・イノベーター育成の基盤形成が進んでいる。

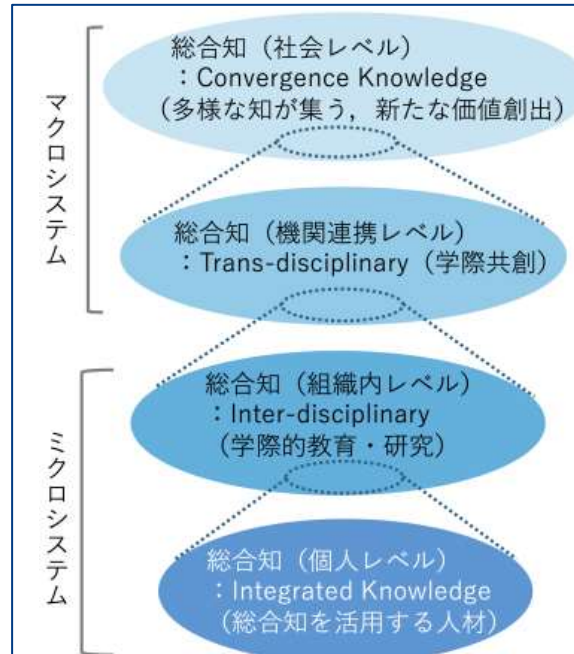


図1 総合知の重層構造 (山田, 2024)

➤ 早稲田大学では「総合知による人類への貢献」を掲げ、研究・教育・貢献を促進する改革を進めており、特に本事例「総合知入門」は個人レベルの総合知を育成する事例である。

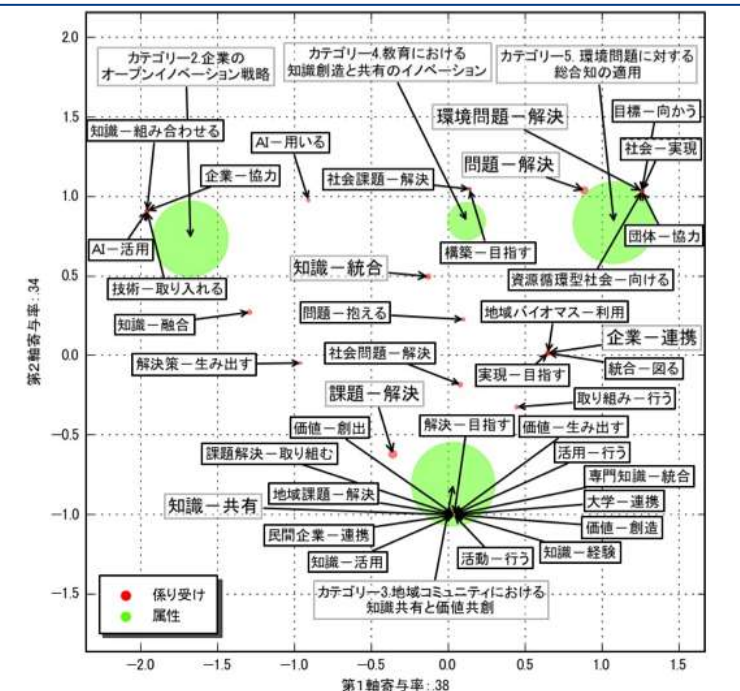


図2 学生が収集した総合知事例の傾向 (2024年課題)

➤ 学生が総合知の事例を収集し、「総合知事例データベース」を共同で作成した。図は事例内容の対応分析であり、総合知が多様な主体の連携による、課題解決と価値創出の営みとして理解されている。

「総合知入門」設置による総合知教育の早期定着と総合知的人材育成の推進

早稲田大学社会科学部 (SSS)

学部理念：複雑化するグローバ社会において、高い志のもとに自ら課題やその解決策を明らかにし、国際社会及び地域社会において、周囲を巻き込みながらその実現を図る、ソーシャルイノベーションの担い手の育成

学部DP：「学際性」「国際性」「臨床性」と社会科学の知識と志の育成

学部の特徴：学際教育を標榜し、様々な学問分野の科目を展開している

ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム (DP事業)

インテンシブ教育

- メリハリある時間割設計
- 早期・集中型のカリキュラム
- 学生-教員：コミュニケーション促進
- 学生-社会：社会連携活動の活性

育成する人材像

高度な知を集約しグローバルイシューに取組み社会変革を共創する
ソーシャルイノベーター

国際性 × 学際性 × 臨床性

答えのない問題に挑戦する 多様性を理解する
「たぐいましい知性」「しなやかな感性」

Waseda Vision 150

学生側 能動的学習の機会拡大

- ・留学、サマースクール
- ・NPO、スタートアップ、共同研究
- ・インターンシップ
- ・ボランティア
- ・フィールドワーク

導入の効果

教員側 教育・研究力の強化促進

- ・FD (教授法習得)
- ・学生への密な指導
- ・社会貢献活動
- ・研究時間増加
- ・国際共同研究拡大
- ・オープンイノベーション

ソーシャルイノベーション・ラボ

社会科学部 学際教育アプローチ

Society5.0に向けた知識集約型社会における大学の役割の変化

知識の獲得 + 知識の共有 = 知識の創造 + 社会変革の共創

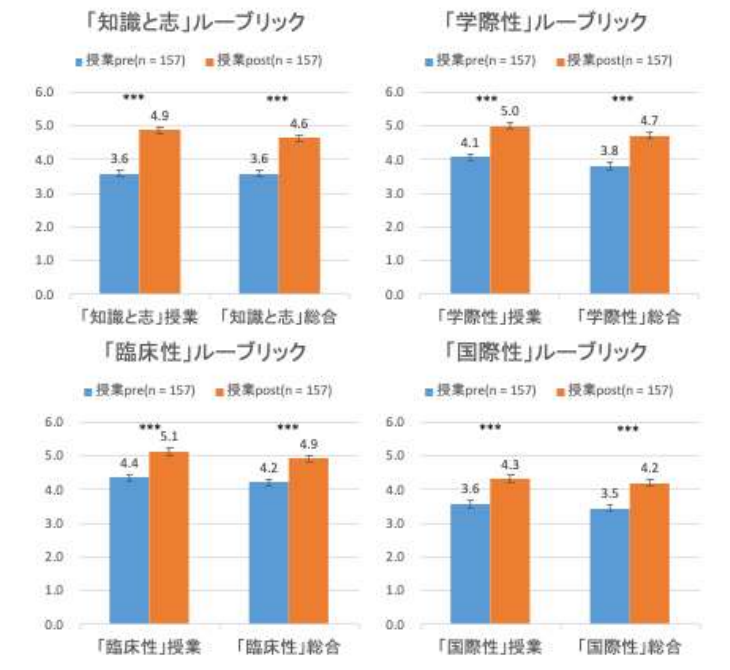
「総合知入門」

- ・ 副題：知識創造から価値共創まで
- ・ 設置箇所・年次：社会科学部，1年生以上
- ・ 授業概要：秋クォーター，フルオンデマンド，専門入門群，ミニマムディシプリン科目

授業の到達目標

- ・ 総合知によるプロジェクトマネジメントと学際的な学び方を理解する
- ・ 総合知による価値共創を事例を通じて知る
- ・ イノベーションのエコシステムを表現できる
- ・ 総合知の協同探究をおこなえる
- ・ 自分の総合知アプローチの考え方をまとめる

授業前後，DP関連ルーブリック分析(2024)



「総合知入門」 (1年次秋Q)

- ✓ 総合知人材育成の準備
- ✓ 学際的思考・学際的学び方の早期定着化
- ✓ 受験的知識観 → 創造的知識観

各コースでの学び (2~4年次)

- ✓ 平和・国際協力コース
- ✓ 多文化社会・共生コース
- ✓ サステナビリティコース
- ✓ コミュニティ・社会デザインコース
- ✓ 組織・社会イノベーションコース

ソーシャルイノベーター (総合知人材) の育成

- ✓ 世の中を良くする高い志
- ✓ 社会科学と学際的な知識
- ✓ 社会課題の解決・協働
- ✓ 実践と継続的な学び
- ✓ 国際的な感覚・知識

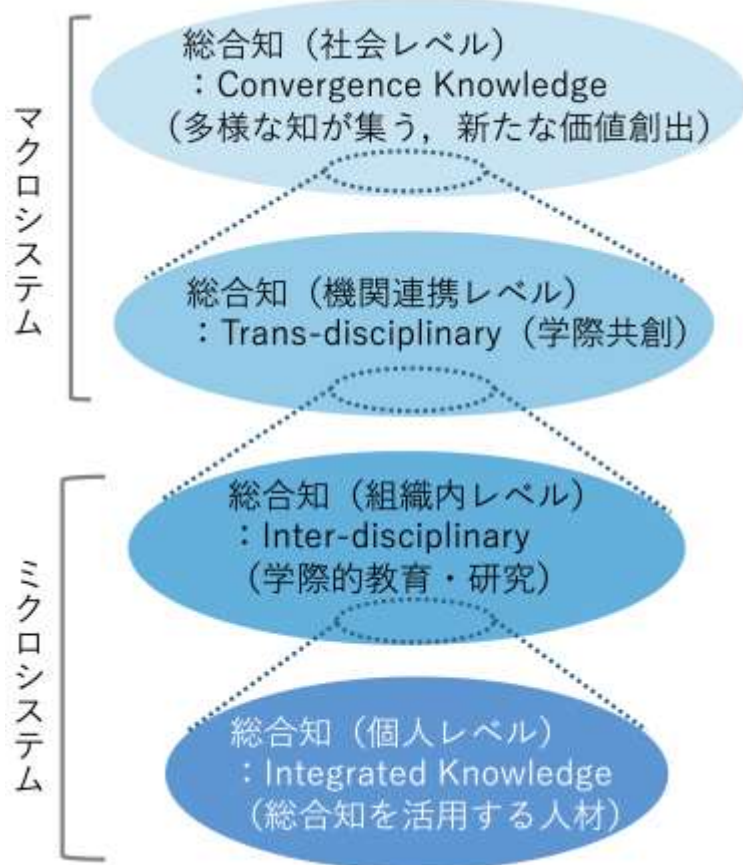


図3 総合知の重層構造 (山田, 2024)

• 総合知に関する個人の資質・スキル

- ✓ 高い志 (世の中を良くしたい, 悩む力)
- ✓ 専門知識/スキル/リテラシー
- ✓ 作る力 (価値, プロジェクト, 意味, 知識)
- ✓ 広げる力 (関わり, 営み, 目的, 領域, 限界)
- ✓ 想像する力 (全体, 予測, 原理, 共感)
- ✓ ずらす力 (視点, 常識, 学習棄却, 批判的思考)
- ✓ 楽しむ力 (実験, 挑戦, 興味, 遊び)
- ✓ 学び続ける力 (自己調整, プレイフル・ラーニング)

• 「総合知」の重層構造(図3)

- 社会レベル, 機関連携レベル, 組織内レベル, 個人レベル

個人が総合知を発揮する効用

- 変化に適合する
 - ✓ 働いている組織で, 様々なアクターとの連携が求められたり, 連携の対象が変わる
 - ✓ 組織や事業にイノベーションを起こすため, 多様なアクターとの連携プロジェクトが始まる
- スタートアップしたり目的を実現する
 - ✓ 新しい事業を立ち上げるために, 複数の領域の知識が必要
 - ✓ メンバーや賛同者を集めるため, 多様な領域の人たちとの連携・調整が必要

• 大学教育における効用

- 受験的知識観 → 創造的知識観
 - ✓ トライアル&エラーしながら, 自分なりの知識を作る
 - ✓ 仲間や学外の人と関わりながら学ぶ
 - ✓ 自分の学びを自分でデザインする
- 学際的思考の定着
 - ✓ 自分の興味関心と社会課題とを関連させる
 - ✓ 社会課題解決のために, 様々な分野の知識を総合する必要性を学ぶ

• 「総合知」の学び方と応用

- 初年次教育 (総合知的マインドセットの醸成), 文理融合 (横断) 教育, STEAM教育, PBL, アクティブラーニング, ワークショップ
- 産官学社連携型, 課題解決型

山田寛邦(2024)「早稲田大学社会科学部「総合知入門」, 知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)採択校合同企画「未来思考型ワークショップ2024 ~「知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)」が創造する大学教育の未来~」

・人材育成・将来の見通し

➤ 「総合知入門」では、早稲田大学社会科学部のDPに基づき、高い志を持つソーシャル・イノベーターの育成を目指している。

✓ 本授業におけるソーシャル・イノベーターとは、「世のため人のため」に働こうとする高い志を持ち、現代社会の複雑な課題の解決に向けて多領域の知を結集し、問題解決策を探究するとともに、それを仕事や生活の場で実行する人を指す。さらに、「何が本当の問題か」を考え続け、異なる立場の人々と対話・協働しながら、学び続ける姿勢を持つ人として定義している。

➤ 早稲田大学では教旨において「一身一家、一国の為のみならず。進んで世界に貢献する抱負が無ければならぬ。」という創設者・大隈重信の考えを掲げ、模範国民の造就を目指してきた。この理念は、総合知を活用したソーシャル・イノベーターの育成と強い連関を有している。

➤ 本授業では、すべての学生が将来の進路やキャリアに応じて、自らのソーシャル・イノベーター像を構築できるように、ソーシャル・イノベーターのあり方を特定の職業や立場に限定していない。社会の中で働き、活動する多様なタイプの人々が、それぞれの場においてソーシャル・イノベーターとなりうることを示している（図4）。

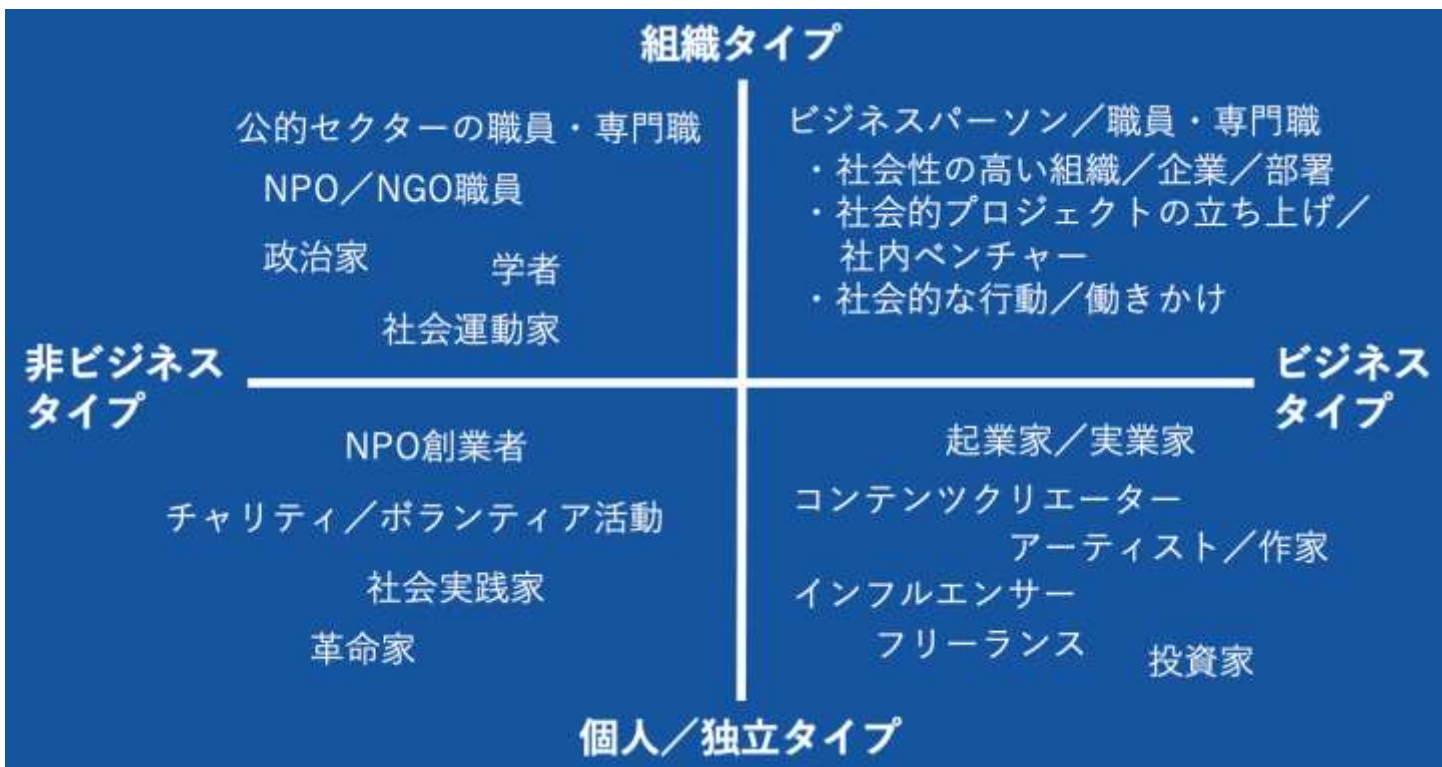


図4 総合知を活用するソーシャルイノベーターの類型

「総合知入門」の仕掛け

- 初年次・クォーター科目として配置し、学際教育への移行を意識した導入科目として位置づける。学部カリキュラム上は重要科目群に位置づけられている。
- オンデマンド形式で、学生が共同して総合知事例データベースを構築し、その成果を知的共有財産として扱う設計。
- 多様な総合知の実践事例を収集・共有し、総合知の活用方法や規模感についてのイメージを広げ、理解を深める構成。
- 社会課題を因果ループ図として整理し、総合知プロジェクトのプロトタイプを構想する課題を通じた、複雑な課題を構造的に捉える視点の導入。
- 総合知により問うべき問いについて、学生同士で提示・共有し、相互評価する協同探究のプロセスを授業に組み込んだ設計。
- 全学ヴィジョンと学部DPを授業内容と対応づけて提示し、総合知の学修を将来像と関連づけて考える構成。